

教科・科目（単位数）	家 庭 ・ ファッション造形基礎（２単位）	学年	３年
使用教科書・副教材等	ファッション造形基礎（実教出版）	集団	選択
科目の目標 家庭の生活に関わる産業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、ファッション造形を担う職業人として必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 （１）被服の構成、被服材料の種類や特徴、被服製作などについて体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身につけるようにする。 （２）被服製作やデザインに関する課題を発見し、ファッション造形を担う職業人として合理的かつ創造的に解決する力を養う。 （３）衣生活の充実向上を目指して自ら学び、ファッション造形に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。			

評価の観点とその趣旨

①知識・技能	被服の構成、被服材料の種類や特徴、被服製作などについて体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身につけている。
②思考・判断・表現	被服製作やデザインに関する課題を発見し、解決策を構想し、ファッション造形を担う職業人として合理的かつ創造的に解決する力を身につけている。
③主体的に学習に取り組む態度	様々な人と協働し、ファッション造形に主体的に取り組んだり、自ら学んだりして、衣生活の充実向上を図るために実践しようとしている。
評価方法	①知識・技能・・・小テスト、ワークシート、作品 等 ②思考・判断・表現・・・小テスト、ワークシート、作品 等 ③主体的に学習に取り組む態度・・・ワークシート、授業への取り組み状況 等

学習計画

月	単元	単元や題材など内容のまとまりごとの学習目標	評価の観点		
			①	②	③
4	人体と衣服	衣服に求められる着心地のよさを理解する	○		
		衣服の２つの形状（平面構成衣服・立体構成衣服）や、既成衣料サイズ表示を理解する。	○		
		体型の特徴や動作によって適した衣料があることを理解する。		○	
5	立体構成衣服と平面構成衣服	年齢や着脱によって生じる様々な変化や影響を理解し、適応する衣服をつくることができるようにする。			○
		立体構成衣服と平面構成衣服、それぞれの形状の違いを学び、衣服を構成する要素の理解を深める。	○		
		繊維や糸や布の種類と特徴について理解する。	○		
6	衣服素材の種類	衣服素材の性能と選択	○		
		デザインや着用目的など、用途に合わせた衣服材料を適切に選択し、取り扱いできる力を身につける。		○	
	洋裁の基礎 トートバッグ製作	衣服材料の特性を理解したうえで用途や好みを確認しながら製作計画をたてようとしている。			○
		洋服の構成や、用具の適切な使用方法、布地の扱い方や縫製の基礎を理解している。	○		
	ショートパンツ製作	選んだ布地の性質や特性を理解した上で、縫い方や裁ち方、地直しを考えることができる。		○	
		パターンや原型の種類を理解し、パターンを起こすことができる。	○		

7	洋服の着装	着用目的や着用者に合わせて、素材・デザインを決定し、パターン作成、裁断、縫製を行う製作過程を意欲的に計画している。			○
9		洋服の着装について、快適に過ごすための工夫や、からだの保護、保健衛生的な観点の他、T P O への配慮など様々な観点から考えることができる。		○	
		多様化するファッションの中で、衣服を選ぶことに関心を寄せている。			○
10	和裁の基礎	用具の適切な使用方法、布地の扱い方、縫製の基礎を製作過程に実践するために理解している。	○		
	和服の製作 (甚平)	和服の特徴や用語を学びながら、材料の選択、寸法の決め方を製作する作品に応じて理解している。	○		
11		和服の種類に応じた技法を習得し、それを自分の製作する作品に表現することができる。		○	
12		技法の学びや実践をとおして、作品制作に積極的に取り組んでいる。			○
1		和服の着装	和服の製作を通して平面構成についての理解を深め、基本的な知識・技術を習得している。	○	
		現代生活の中で慣習にとらわれず和装に親しみを持ち、新しいものとして日常着に取り入れようとしている。			○

教科・科目（単位数）	理科 ・ 選択化学 （2単位）	学年	3年
使用教科書・副教材等	新版 化学 新訂版（実教出版） 改訂版 リードLightノート 化学（数研出版）	集団	選択科目
農業高校における理科としての目標 科学における基本的な原理・法則を理解し、農業科目を学ぶ上で必要となる論理的な思考力を養い、これを目標とする。 科目の目標 科学的な事物・現象に対する探究心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、科学的に探究する能力と態度を育てるとともに、科学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的な自然観を育成する。			

評価の観点とその趣旨

①知識・技能	物質とその変化について、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身につけている。また観察や実験を通して、基本操作を習得するとともに結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身につけている。
②思考・判断・表現	化学的な事物・現象の中に問題を見出し、探究する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを明確に表現している。
③主体的に学習に取り組む態度	日常生活や社会との関連を図りながら、物質とその変化についての課題に主体的に探究する態度を醸成する。また、自然現象や日常生活における科学的な関わりについて学ぼうとする態度を養う。
評価方法	(1) 授業への取り組み：授業に対する姿勢、学習態度、化学への関心等で判断する。 (2) ノートの記載内容：授業内容を適切にまとめているか、科学的な思考ができているかなどを評価する。 (3) 観察・実験等：観察・実験等を行い、レポートを書く。観察・実験に対する姿勢、予想や考察、器具の操作、報告書などから評価する。 (4) 教科書・問題集の問題：各問題への取り組み、取り組んだ内容から評価する。 (5) 定期テスト：学習内容にあわせて問題を出題し、その回答記述から評価する。

学習計画

月	単元	単元や題材など内容のまとまりごとの学習目標	評価の観点		
			①	②	③
4	物質の状態と平衡	物質の構造と融点・沸点 粒子の熱運動と物質の関係から、融点・沸点について分子の構造から考察できる。		○	○
		ボイル・シャルルの法則 圧力・体積・温度の関係性を理解し、公式を使って計算をすることができる。	○		
		気体の状態方程式 アボガドロの法則より、気体と物質量の関係を理解し計算することができる。	○		
5	物質の変化と平衡	化学反応と熱・光エネルギー 化学反応がエネルギーの出入りによって起こることを理解し、ヘスの法則から反応熱を求めることができる。	○	○	
6		反応の速さとしくみ 濃度と時間の関係より、反応速度は変化量によって求められることを理解している。また、活性化エネルギーの存在から、反応に必要なエネルギーを求めることができる。	○	○	

7		化学平衡 ルシャトリエの原理より、温度・圧力・濃度の関係性について理解している。	○		
9	無機物質	硫黄(16族)とその化合物 接触法の原理を理解し、計算によって生成される硫酸の量を求めることができる。		○	○
10		窒素・リン(15族)の化合物 ハーバー・ボッシュ法及びオストワルト法の原理を理解し、反応式より化学平衡における生成物の量の変化について考察できる。		○	○
		アルカリ金属とその化合物 アンモニアソーダ法における5つの反応について理解し、計算によって炭酸ナトリウムの生成量を求めることができる。		○	○
11	有機化合物	有機化合物の特徴と分類 有機化合物の官能基や構造について理解し、構造決定に必要な知識を身につけている。	○		
12		脂肪族炭化水素 炭化水素の基本的な反応である置換反応や付加反応を理解し、様々な構造をもつ有機化合物を分類することができる。	○	○	
		酸素を含む脂肪族炭化水素 アルコールやアルデヒドの基本的な構造や反応を理解し、諸反応について計算を用いて生成物を求めることができる。		○	○
		芳香族化合物 芳香族化合物のもつ構造や性質について理解し、その構造によって起こる諸反応について考察することができる。	○	○	
1	高分子化合物	高分子化合物 高分子化合物における基礎的な知識を理解し、構造式の違いによる分類をすることができる。	○		
		天然高分子 農業高校で主に学ぶ二糖類の構造や、アミノ酸の構造や諸反応について理解している。	○	○	
		合成高分子 日常生活で目にするプラスチックなどの合成高分子がどのようなモノマーから成り立っているのかを理解する。	○		○

教科・科目（単位数）	理科・生物（2単位）	学年	3年
使用教科書・副教材等	高等学校 生物（数研出版）	集団	選択科目
農業高校における 理科としての目標 科学における基本的な原理・法則を理解し、農業科目を学ぶ上で必要となる論理的な思考力を養うことを目標とする。 科目の目標 （１）生物学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。 （２）観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。 （３）生物や生物現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養う。			

評価の観点とその趣旨

①知識・技能	生物や生物現象に関する基本的な概念や原理法則などを理解でき、それを日常に反映することができる知識を身につけている。多種多様な生物や生物現象についての観察、実験などのねらいを明確にして計画・実施・考察ができる技能を身に付けている。
②思考・判断・表現	実験・観察などを通して、生物や生物現象に関する基本的な概念や原理・法則を理解する見方や考え方を身に付けており、それを適切な手段で表現できる。
③主体的に学習に取り組む態度	身近な生物や生物現象への関心を高め、生徒自らが研究・観察・実験などを行い、日常生活や社会と学習の内容に関わりがあることに気づく力を持つ。
評価方法	(1) 授業への取り組み：振り返りシートにより授業に対する姿勢、生物への関心等で判断する。 (2) ノートの記載内容：授業内容を適切にまとめているか、科学的な思考ができているかを評価する。 (3) 課題調査：課題調査を行い、レポートを書く。取り組む姿勢、予想や考察などから評価する。 (4) 教科書・問題集の問題：各問題への取り組み、取り組んだ内容から評価する。 (5) 中間・定期考査：学習内容にあわせて問題を出題し、その回答記述から評価する。

学習計画

月	単元	単元や題材など内容のまとまりごとの学習目標	評価の観点		
			①	②	③
4	1 生物の進化 ア生命の起源と細胞の進化 イ遺伝子の変化と進化の仕組み ウ生物の系統と進化	生命の起源に関する考えを理解する。	○	○	○
		突然変異と形質変化の関係を理解する。	○	○	○
		遺伝子の組み合わせが変化することを理解する	○	○	○
5		遺伝子頻度が変化する要因を理解する。	○	○	○
		生物の系統と塩基配列の関係を理解する	○	○	○
		人類の進化を形態的特徴などと関連付けて理解する。	○	○	○
6					
7	2 生命現象と物質 ア細胞と分子 イ代謝	細胞を構成する物質を細胞の機能と関連付けて理解する。	○	○	○
		タンパク質の機能を生命現象と関連付けて理解する。	○	○	○
		呼吸をエネルギーと関連付けて理解する。	○	○	○
		光合成をエネルギーと関連付けて理解する。	○	○	○

9	3 遺伝情報の発現と発生	遺伝子の発現の仕組みを理解する。	○	○	○
		転写の調節をそれに関わるたんぱく質と関連付けて理解する。	○	○	○
		発生の過程における分子を遺伝子発現の調節と関連付けて理解する。	○	○	○
10	4 生物の環境応答	刺激を受容し神経系を介して反応する仕組みを関与する細胞の特性と関連付けて理解する。	○	○	○
		動物の行動を神経系のはたらきと関連付けて理解する。	○	○	○
		植物の成長や反応に植物ホルモンが関わることを見出して理解する。	○	○	○
11	5 生態と環境 ア 個体群と生物群集	個体群が維持される仕組みや個体間の関係性を理解する。	○	○	○
12		生物群集が維持される仕組みや個体群間の関係性を見出して理解する。	○	○	○
1	イ 生態系	生態系における物質生産及びエネルギーの移動と生態系での物質循環とを関連付けて理解する。	○	○	○
2		人間生活が生態系に及ぼす影響を見出して理解する。	○	○	○

教科・科目（単位数）	数学・数学Ⅰ演習（２単位）	学年	３ 年
使用教科書・副教材等	新編 数学Ⅰ（実教出版）	集団	３年選択
農業高校における数学科としての目標 学習した内容を活かした新しい物事を生み出す能力を育てるとともに順序立てて物事を考え、最終目標にたどり着く手段や考える力を育てる 科目の目標 数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 （１）数と式、図形の計量、二次関数、データの分析についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。 （２）数と式を多面的にみたり目的に応じて適切に変形したりする力、論理的に考察し、表現する力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を表、式、グラフを相互に関連付けて考察する力、問題を解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力を養う。 （３）数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。			

評価の観点とその趣旨

①知識・技能	数と式、図形と計量、二次関数、データの分析についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりすることに関する技能を身に付けている。
②思考・判断・表現	数と式を多面的にみたり目的に応じて適切に変形したりする力、図形の構成関係の關係に着目し、図形の性質や計量について論理的考察し、表現する力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を表、式、グラフを相互に関連付けて考察する力、問題を解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力が身に付いている。
③主体的に学習に取り組む態度	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度が身に付いている。問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎が身に付いている。
評価方法	観察、振り返りシートの記述の点検 定期試験、小テスト、課題の提出物等の取り組み状況

学習計画

月	単元	単元や題材など内容のまとまりごとの学習目標	評価の観点		
			①	②	③
4	1 数と式 ①式の計算	整式の加法、減法、2次の展開や因数分解の基本的な公式の理解を深める。	○		
		数を実数まで拡張する意義を理解し、簡単な無理数の計算をする。	○		
		分母の有理化の理解を深める。		○	
	②実数	不等式の解の意味や不等式の性質について理解し、一次不等式の解を求める。	○		
		数と式について、数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く問題を解く。			○
5	3 2次関数 ①2次関数のグラフ ②2次関数の最大・最小	2次関数の値の変化とグラフの特徴について理解する。 2次関数のグラフをかく。	○		
		2次関数の最小値や最大値を求める。	○		
		日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、2次関数の最大・最小を問題に活用する。		○	
	③2次関数の決定 ④2次関数のグラフと2次方程式	2次不等式の解と2次関数のグラフとの関係について理解する。	○		
		2次関数について、数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く問題を解く。			○
6	⑤2次関数のグラフと2次不等式	2次関数について、数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く問題を解く。			○
7	総合的な問題演習	数と式、2次関数の総合的な問題を理解し、解くことができる。		○	○
9	4 図形の計量 ①三角比	三角比を鈍角まで拡張する意義を理解し、鋭角の三角比の値を用いて鈍角の三角比の値を求める。		○	
		正弦定理や余弦定理について三角形の決定条件や三平方の定理と関連付けて理解し、三角形の辺の長さや角の大きさを求める。	○		
		日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、正弦定理や余弦定理の問題に活用する。		○	
	②三角比の相互関係 ③正弦定理 ④余弦定理 ⑤三角形の面積	三角比を用いて三角形の面積を求める。	○		
		三角比について、数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く問題を解く。			○
10	5 データの分析 ①度数分布、代表値 ②四分位偏差と四分位範囲	度数分布、四分位数からその事象の傾向を読み取る。		○	
		データを表やグラフに整理し、分散や標準偏差などの基本的な統計量を求める。	○		
		データの散らばり具合や傾向を数値化する方法を考察する。		○	
	③分散と標準偏差 ④データの相関 ⑤データの外れ値	分散、標準偏差、相関などを活用し、事象を考察する。		○	
		具体的な仮説検定の考え方を理解する。	○		
11	⑥仮説検定の考え方	データの分析について、数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く問題を解く。			○
12	総合的な問題	数学Ⅰについての総合的な問題を理解し、解くことができる。		○	○
1					
2					

教科・科目（単位数）	農業・草花（２）	学年	３年
使用教科書・副教材等	草花（実教出版）	集団	選択
科目の目標 農業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、草花の生産と経営に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 （１）草花の生産と経営について体系的・統計的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 （２）草花の生産と経営に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。 （３）草花の生産と経営について生産品や品質の向上が経営発展へつながるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に取り組む態度を養う。			

評価の観点とその趣旨

①知識・技能	- 草花の形態的特徴や生理的特性について理解している。 - 観察や実験・実習を通して科学的かつ創造的に学習を進め、草花の応用を図る実践力を身に付けている。
②思考・判断・表現	- 草花について性質や特徴を考察し、適切に取り扱う判断力を身に付けている。 - 草花を生活に取り入れることを考察し、合理的かつ創造的に解決する力を身に付けている。
③主体的に学習に取り組む態度	- 実習における責任や協働の経験を通して意欲を高めようとしている。 - 草花の種類やその特徴に関心をもち主体的に取り組もうとしている。
評価方法	- 知識・技術の点検、確認、分析（定期試験、小テスト、実習プリント、レポート 等） - 記述の点検、確認、分析（実習プリント、レポート、グループワーク 等） - 学習状況の観察、確認（実習レポート、提出物等への取り組み状況、授業への取り組み 等）

月	単 元	単元や題材など内容のまとまりごとの学習目標	評価の観点		
			①	②	③
4	草花生産と消費の動向 （１）草花園芸の特徴 （２）草花の生産形態	草花生産形態と経営の特徴を他の農作物と比べて理解する。	○		
		草花の生産と流通の課題発見し、合理的かつ創造的に解決する力を身につける。		○	
5	（３）草花生産と消費の動向 生活と草花の利用 （１）繁殖方法の実践	草花の生産と流通のしくみを理解し消費の動きから輸出入の状況と課題を把握し理解する。	○		
		様々な草花の繁殖方法を実践し、主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。			○
6	（２）草花の多面的利用 （３）園芸デザイン 草花の特徴と栽培技術 （１）草花栽培の実践	草花利用の意義を理解し、特性を活かした活用について技術を身につけ、課題を解決する力を養う。		○	
		春まき草花の花壇苗や鉢ものの栽培管理方法を理解し実践する中で、主体的に取り組む態度を養う。			○

月	単元	単元や題材など内容のまとめりごとの学習目標	評価の観点		
			①	②	③
7	(2) 草花の生育と環境	草花の生育と環境要因との関係を学び、光合成について理解する。	○		
9	(3) 品種改良と繁殖 (4) 秋まき草花の利用	品種の重要性と品種改良の目的を理解し、品種改良の様々な方法を学び、課題を発見し解決する力を養う。		○	
		日長反応について理解し、苗物や鉢物の生産管理や流通について理解する。	○		
10	(5) 草花の生育と栽培技術 (6) 草花栽培の実践	草花の生育環境と適切な栽培技術を理解し、品質や草姿の調整技術を身につけ、主体的かつ協働的に取り組む。			○
11	(7) 生産施設と栽培環境の調節 (8) 草花栽培の実践	施設管理や資材の特徴を理解し、施設栽培の課題を発見し解決する。		○	
		花苗の販売促進のための手立てを考え、主体的かつ協働的に取り組む。			○
12	切り花生産 (1) 切り花生産の特色	切り花生産の経営と栽培の特徴を理解し、品質管理技術を身につける。	○		
1	(2) 切り花の栽培の特徴 (3) 球根の切り花	切り花温室の土壌状態を理解し、生育に適した肥料や土壌の基本的な知識と技術を身につける。	○		
		球根類の生理的特性や増殖技術について理解し、課題を発見し解決する力を養う。		○	
2	農薬管理と環境整備 (1) GAP に基づいた農薬管理	GAP の考え方を理解し、使用している施設の課題を発見し解決に向けて取り組む態度を養う。			○

教科・科目名（単位数）		家庭・保育基礎（2単位）		HR コース	選択
学年	3年	使用教科書・副教材等	保育基礎（実教出版）		
農業高校における家庭科（保育基礎）の目標					
農業に関する内容を「栄養と食事」「遊びと表現活動」の分野に取り入れ、理解を深める。					
目標 家庭の生活に関わる産業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、保育を担う職業人として必要な基礎的な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。					
（1） 保育の意義や方法、子供の発達や生活の特徴及び子供の福祉と文化などについて体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。					
（2） 子供を取り巻く課題を発見し、保育を担う職業人として合理的かつ創造的に解決する力を養う。					
（3） 子供の健やかな発達を目指して自ら学び、保育に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。					

評価の観点とその趣旨

① 知識・技能	保育に関する基礎的・基本的な技術を身につけている。子どもの発達の特性、生活と保育に関する知識を総合的に身につけている。
② 思考・判断・表現	子どもの発達や保育に関わる現状について理解を深めた上で課題を見つけ、その解決をめざして思考を深め、適切に判断し、工夫し創造する能力を身につけている。
③ 主体的に学習に取り組む態度	子どもの発達や保育への関心を持ち、意欲的に学習に取り組み、子どもの健やかな発達や保育に寄与していこうとする実践的な態度を身につけている。
評価方法	・授業への取り組み状況 ・実習への取り組み状況 ・定期テスト・小テスト ・課題レポート・作品

学習計画

月	単元	単元や題材など内容のまとまりごとの学習目標	評価の観点		
			①	②	③
4	子どもの保育 保育の意義 保育の方法 保育の環境	保育者の役割を理解し、その資質や能力を身につけるにはどのような点に気をつけていけばよいかなどが理解できる。	○	○	○
		発達時期の特性を考慮した保育の工夫が必要であることが理解できる。	○	○	○
		子どもを取り巻く環境が子どもの発達に大きな影響を与えること、発達段階における発達課題に応じて、接し方・援助の仕方・適切な保育環境整備について理解できる。	○	○	○
			○	○	○
5	子どもの発達 子どもの発達の特性	胎児の生育環境である母体に対する関心と課題意識を高めている。また、乳幼児の身体的特徴と生理的特徴及びその変化に関する知識を身につけている。	○	○	
6	子どものからだの発達	誕生から幼児期までの子どもの身体発育、運動機能、認知機能などそれぞれの発達の特性について理解している。	○	○	
		子どもの心の発達の特徴と発達の経過について理解している。人間関係の発達については乳幼児期の愛着の発達が重要であり、安全基地を土台として人間関係が広がっていくことを理解している。	○	○	

7	月齢、年齢別の 発育・発達	それぞれの月齢・年齢ごとの身体的・生理的特徴に関心を持ち、 保育に関連づけて考察することができる。	○	○	
	子どもの文化	子どもの文化の意義を理解し、それらの役割や今後の課題について 考察することができる。	○	○	
	子どもの文化の 意義と支える場	遊びを通じて子どもが豊かに発達することについて理解している。		○	○
	子どもの遊びと 表現活動	子どもの発達や特性をふまえた上で、子どもの遊具等の作成に取り 組み、子どもの遊びや表現活動に関連する技術を身につけている。			
9	子どもの生活	子どもの生活に関心を持ち、主体的に子どもの生活を理解しよう としている。	○	○	○
10	子どもの生活と 養護	子どもの食生活や衣生活について子どもの健康的な生活を支える 保育の基礎的な技術を身につけている。			
11	生活習慣の形成	子どもが生活習慣を身につけるための援助の方法について思考 を深めている。	○	○	○
12	健康管理と事故 防止	子どもの健康状態を見るときのポイントや病気の特徴、予防接種 について理解している。 子どもにおこりやすい事故を予測し、その対策を考えることがで きる。	○	○	
1	子どもの福祉	子ども観の変遷や、権利の主体として尊重されつつある状況を理 解している。	○	○	
2	子どもの福祉	児童福祉の基本的な考え方について理解し、子どもの幸福につい て自分の意見や考えをまとめることができる。	○	○	○
	子育て支援	児童虐待の現状と対策について自分の考えを述べている。 子どもの現状をふまえて、これからの子育て支援を考えている。	○	○	○

教科・科目（単位数）	農業・植物バイオテクノロジー（２）	学年	３年
使用教科書・副教材等	植物バイオテクノロジー（実教出版）	集団	選択
科目の目標 農業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、植物に関するバイオテクノロジーを農業の各分野で活用するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 （１）植物バイオテクノロジーについて体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 （２）植物バイオテクノロジーに関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。 （３）植物バイオテクノロジーについて特質を理解し、農業の各分野で活用できるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。			

評価の観点とその趣旨

① 知識・技術	組織培養などの体験的な学習を通して、植物体のもつ分化全能性の特性とバイオテクノロジー技術の関連について理解し、無菌操作、培養、順化に関する知識と技術を身に付けている。
② 思考・判断・表現	農業の各分野におけるバイオテクノロジーの意義や役割を理解し、組織培養技術などを利用して野菜、草花、果樹等の品質改善を図る考えを身に付けている。実験・実習計画に従い、手順、展開、結果の処理に取り組む態度を身に付けている。
③主体的に学習に取り組む態度	基礎的・基本的な知識と技術を基に実験・実習に取り組み、実験・実習結果の観察、整理、まとめ、評価と反省ができ、新たな課題解決を目指した思考ができる能力を身に付けている。
評価方法	①ペーパーテスト、実験・実習記録用紙、ノート ②計画の実施過程、観察・調査、評価・反省、記録簿の整理、成果の処理 ③計画の実施過程、生産物の調整、生産の成果、観察・調査、評価・反省、実験・実習振り返りシートの作成

学習計画

月	単元	単元や題材など内容のまとめりごとの学習目標	評価の観点		
			①	②	③
4	「植物バイオテクノロジー」とプロジェクト学習	植物バイオテクノロジーを科学的に捉え、自ら学び取り組むことができるようになる			○
	バイオテクノロジーの意義と役割	バイオテクノロジーの意義と役割について、農業や関連産業における利用の可能性や課題との関連から捉えることができるようになる		○	
5	植物バイオテクノロジーの特質と基本操作	植物の構造と機能や無菌操作の基本等との関連から捉える学習活動をとおして、基本的な無菌操作ができるようになる	○		
6	①植物の構造と機能				
	②分化と植物ホルモン		○		
	③植物の生殖と遺伝				
	④組織培養とは	培地調製や移植等の無菌操作と並行して理解する			
	⑤組織培養の方法				
	⑥施設と機器・器			○	

7	具 ⑦安全管理 ⑧実験計画と進め方	安全に実験を行うことができる。 研究の計画やテーマの選定ができるようになる 各自で設定したテーマについて取り組む			○
9	植物組織培養の実 際 ①ラン類の無菌播 種 ②茎頂培養	植物の大量増殖技術について理解する。 茎頂培養の目的を理解する。茎頂培養の技術を身に付ける。	○		
10	植物バイオテクノ ロジーの実践活動	地域の伝統食材の保存（地元ワサビ等の茎頂培養と品種保存） 絶滅危惧種の保護（サツマイモ、南アルプス高山植物種子保存プロジェクト） 環境問題と併せて理解する。年間を通して並行して活動する。			○
11	遺伝子組み換え ①遺伝子組換えと は ②遺伝子組換えの 方法	育種の手法として遺伝子操作の原理を理解する		○	
12	③安全性と実用化 における課題				
1	バイオマスの利用 ①バイオマスとは ②バイオマスの役 割 ③資源としてのバ イオマス	資源の有効利用と再生産について考えることができるようになる	○		
2	植物バイオテクノ ロジーの成果と展 望	植物バイオテクノロジーの成果、現状、課題とこれからの展望について理解する		○	

教科・科目（単位数）	農業・生物活用（2単位）	学年	3 年
使用教科書・副教材等	生物活用（実教出版）	集団	選択
科目の目標 （１）園芸作物や社会動物の活用に必要な知識と技術を習得させる。 （２）主に園芸作物の特性を利用した活動を行い、家庭生活や交流プログラムなど、生活の質の向上を図る能力と態度を育てる。			

評価の観点とその趣旨

①知識・技能	園芸作物の栽培や活用に関する基本的な知識を身につけ、交流や療法的な活動における対象者や技法を理解する。 芸作物の栽培に必要な基本的な技能や、作物を活用した製作物の作成技術を身につけ、交流活動に応用できる技法を習得する。
②思考・判断・表現	作物を利用した製作物の効率的な活用方法について考える。栽培や活用について学んだ知識や技能が応用できるか考える。実習作業における安全性や必要な道具・準備・片付けまで自ら考えて行動できる。
③主体的に学習に取り組む態度	園芸作物の役割に関心を持ち、実際に栽培することで、生活の質の向上を図る態度を養う。
評価方法	各授業における記録、レポート、発表、学習への意欲・態度 実習における活動、積極性や主体性、製作物の状況、園芸作物の管理 中間・期末テスト

学習計画

月	単元	単元や題材など内容のまとめりごとの学習目標	評価の観点		
			①	②	③
4	生物活用の意義と役割	園芸作物が生活・福祉・医療の現場で活用されている具体的な事例を学習する。	○		○
	園芸と人間生活	植物と対人サービスの関わりや精神や身体健康回復への効果について学習する。	○		○
5	野菜の栽培と活用	校内花壇を利用した、夏野菜・多肉植物・花木類（バラなど）、観葉植物の特性や栽培に関する基本的な知識や技術を学習する。	○	○	
	草花の栽培と活用	校内花壇を利用した、夏野菜・多肉植物・花木類（バラなど）、観葉植物の特性や栽培に関する基本的な知識や技術を学習する。	○	○	
6	多肉植物の活用	校内花壇を利用した、夏野菜・多肉植物・花木類（バラなど）、観葉植物の特性や栽培に関する基本的な知識や技術を学習する。	○	○	
	野菜の栽培と活用	1学期に栽培管理を行った園芸作物をもとに、加工や寄せ植えなど活用方法を実習を通して学習する。 秋野菜の栽培を通し知識や技術を養う。 省スペースや、プランター、袋を利用した秋冬野菜の栽培を行う。		○	○
7	草花の栽培と活用	秋野菜の栽培管理を行った園芸作物をもとに、加工や寄せ植えなど活用方法を実習を通して学習する。 花木類に関しては、引き続き栽培管理を行う。		○	○
	多肉植物の活用	多年草や、花木類に関しては、引き続き栽培管理を行う。		○	○
8					

1	次年度への準備	管理してきた圃場等を整備するとともに、次年度の準備として土づくりを行う。		○	○
2					

教科・科目（単位数）	農業・畜産（２）	学年	３年
使用教科書・副教材等	畜産（実教出版）	集団	３年選択
科目の目標 農業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、家畜の飼育と畜産経営に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 （１）家畜の飼育と畜産経営について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 （２）家畜の飼育と畜産経営に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。 （３）家畜の飼育と畜産経営について生産性や品質の向上が経営発展へつながるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。			

評価の観点とその趣旨

① 知識・技能	家畜の特性や飼育環境、産業動物としての役割についての知識を身に付け、飼育環境と家畜の相互関係から飼育技術を総合的・体系的に理解している。各家畜に適した飼育管理技術、家畜及び畜産物の利用方法を身につけている。
② 思考・判断・表現	家畜の発達と生理・生態の特徴と飼育環境及び飼育技術の関わりを多面的に考察し、飼育に及ぼす環境の影響を適切に判断するとともに、畜産物の供給や今後の畜産の発展と地球環境との関わりについて、適切に判断する能力を身に付けている。
③主体的に学習に取り組む態度	家畜の飼育技術の仕組みや家畜生産の役割など家畜の飼育と経営に興味・関心を持ち、飼育技術を総合的・体系的に理解する意欲と態度を身に付け、適切な飼育管理ができる意欲的な態度を身に付けている。
評価方法	・知識・技術の点検、確認、分析（定期試験、小テスト、実験プリント、レポート 等） ・記述の点検、確認、分析（実験プリント、レポート、グループワーク 等） ・学習状況の観察、確認（実験レポート、提出物等への取り組み状況、授業への取り組み 等）

学習計画

月	単元	単元や題材など内容のまとめりごとの学習目標	評価の観点		
			①	②	③
4	第一章 日本の畜産の特徴と役割 1.日本の畜産の特徴	自分たちの食生活を見つめるなかで、畜産物の需要について関心を持ち、調べることができる。			○
		日本の食料自給率と畜産物の供給、利用について考察し、その活用について判断できる。		○	
		地域環境と安全に配慮した畜産物の生産から消費までの食料供給の仕組みを理解している。	○		
5	2.日本における畜産物の需給の動向 3.畜産の役割 4.科学の発展と畜産	日本の畜産の特徴に関心をもち、世界の畜産との共通点及び違いなどを理解しようと意欲的に取り組んでいる。			○
		「食料生産」「地域産業」「環境保全」「食育」といった畜産のもつ多面的な役割について、総合的に考えることができる。		○	
		畜産が食料生産において果たしている役割と畜産の課題について理解している。	○		
6	第二章 家畜の生理・生態と飼育環境 1.家畜の生理・生態	家畜を取り巻く飼育環境に関心をもち、家畜の環境への対応能力と飼育環境の改善、動物福祉と家畜飼育についての学習に意欲的に取り組んでいる。			○
		家畜の観察や調査を通して生理・生態的な特性と生育の特徴を考察することができる。		○	

		家畜の分類や家畜化の条件など、家畜に関する基礎知識を身につけている。	○		
7	2.飼育環境の調節 3.家畜排せつ物の処理と利用	家畜排せつ物の利用法に関心を持つことができる。			○
		家畜と飼育環境との関係を理解し、家畜にとっての快適な環境について考えることができる。		○	
		家畜排せつ物の利用として、良質な堆肥の製造を行うことができる。	○		
9	第三章 家畜と飼料 1.家畜の栄養と栄養素	家畜の栄養と飼料について興味をもつことができる。			○
		家畜と栄養の概念を通して、食糧生産における畜産と飼料の関係について、その課題を考えることができる。		○	
		各家畜の消化器官と消化・吸収について、特性を理解し飼料給与を行うことができる。	○		
10	2.家畜の消化器官と飼料の消化・吸収	家畜の栄養と飼料について興味をもつことができる。			○
		家畜と栄養の概念を通して、食糧生産における畜産と飼料の関係について、その課題を考えることができる。		○	
		家畜の栄養と栄養素について科学的に理解している。	○		
11	3.飼料の特性と給与 4.飼料作物の特徴と草地の管理	飼料作物の栽培とその利用について関心をもつことができる。			○
		飼料作物、牧草の栽培と利用法について、自給飼料の意義を踏まえながら考えることができる。		○	
		飼養標準を活用して各家畜の状態に応じた飼料給与を行うことができる。	○		
12	第四章 家畜の飼育 1.養鶏	鶏の特性に関心をもち、意欲的に学習に取り組んでいる。			○
		鶏の飼育に関する科学的な見方と課題解決できる実践力、判断力を身に付けている。		○	
		鶏の品種の選定や施設の利用など飼育計画に必要な技術を習得している。	○		
1	2.養豚	豚の特性に関心をもち、意欲的に学習に取り組んでいる。			○
		豚の飼育に関する科学的な見方と課題解決できる実践力、判断力を身に付けている。		○	
		豚の品種の選定や施設の利用など飼育計画に必要な技術を習得している。	○		
2	3.酪農	乳牛の特性に関心をもち、意欲的に学習に取り組んでいる。			○
		乳牛の飼育に関する科学的な見方と課題解決できる実践力、判断力を身に付けている。		○	
		乳牛の品種の選定や施設の利用など飼育計画に必要な技術を習得している。	○		

教科・科目（単位数）	農業 ・ 農業と情報演習 （２）	学年	３年
使用教科書・副教材等	農業と情報 （実教出版）	集団	３年選択
科目の目標 社会における情報化の進展と情報の意義や役割を理解させ、コンピュータ（ソフトウェア）に関する応用知識と処理能力の技術取得を図る。また、農業に関する情報を主体的に活用する能力と態度を育てる。			

評価の観点とその趣旨

① 知識・技能	現代社会にあふれる情報を整理し、コンピュータ（ソフトウェア）を活用するための知識を持ち、また、それを活用するための技能を取得している。情報及び情報技術が果たしている役割・影響を理解している。
② 思考・判断・表現	情報機器や情報通信ネットワーク、ソフトウェアを適切に活用して情報を収集、処理、表現するとともに、主体的かつ効果的にコミュニケーションを行うための表現技術を習得している。
③ 主体的に学習に取り組む態度	情報社会に積極的に参画する態度を持ち、情報技術（コンピュータ）を主体的に活用し、情報社会の課題を解決しようとしている。
評価方法	授業ごとの行動の観察、レポートの点検、確認 （授業態度、提出物などの取り組み状況、小テスト、定期テスト）

学習計画

月	単元	単元や題材など内容のまとまりごとの学習目標	評価の観点		
			①	②	③
4	文書の作成と表現	文書作成ソフトウェアの特徴と機能を理解する。	○		
		文書作成ソフトウェアの利用方法を身につける。	○	○	
5	データや情報の表現	文章作成ソフトウェアを正確且つ効率的に活用する。	○		○
6		表計算ソフトウェアの特徴と機能を理解する。	○		
7		表計算ソフトウェアの利用方法を身につける。	○	○	
		表計算ソフトウェアの応用機能適切に活用する。	○		○
9	スマート農業の目指す将来	スマート農業の仕組みを理解する。	○		
		データの重要性や農業情報システムの役割を理解する。	○	○	
		A I やロボットの農業への利用や可能性を考える。		○	○
10	情報の視覚化	ソフトウェアの機能を応用し視覚化する技術を身につける。	○		
		情報を視覚化し、表現する。		○	○
11	プレゼンテーション	プレゼンテーションソフトウェアの特徴と機能を理解する。	○		
12		プレゼンテーションソフトウェアの利用方法を身につける。		○	○
1					

教科・科目（単位数）	農業 ・ 野菜 （ 2 単位 ）	学年	3 年
使用教科書・副教材等	野菜 （ 実教出版 ）	集団	選択 野菜
科目の目標 農業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、野菜の生産と経営に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 （１）野菜の生産と経営について体系的・系統的に理解するとともに関連する技術を身につけるようにする。 （２）野菜の生産と経営に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的にかつ創造的に解決する力を養う。 （３）野菜の生産と経営について生産性や品質の向上が経営発展へつながるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。			

評価の観点とその趣旨

① 知識・技術	- 野菜の基礎知識を理解し、栽培に関しての知識を身につけている。 - 観察や実習を通して科学的かつ創造的に学習を進め、野菜栽培のための実践力を身につけている。
②思考・判断・表現	- 野菜について性質や特徴を考察し、適切に取り扱う判断力を身に付けている。 - 野菜の栽培方法等について考察し、合理的かつ創造的に解決する力を身に付けている。
③主体的に学習に取り組む態度	- 実習における責任や協働の経験を通して意欲を高めようとしている。 - 野菜の種類やその特徴に関心を持ち主体的に取り組もうとしている。
評価方法	- 知識・技術の点検、確認、分析（定期試験、小テスト、実習プリント、レポート 等） - 記述の点検、確認、分析（実習プリント、レポート、グループワーク 等） - 学習状況の観察、確認（実習レポート、提出物等への取り組み状況、授業への取り組み 等）

学習計画

月	単元	単元や題材など内容のまとまりごとの学習目標	評価の観点		
			①	②	③
4	野菜生産の役割と動向	日本で栽培されている野菜について、原産地や来歴、生産と消費の特徴を知り、野菜が我々の生活を豊かにしていることを理解している。	○	○	
	1, 野菜の種類と特徴(1)野菜の種類と利用	野菜の分類によって、共通する栽培管理や病虫害、生理・生態的特性を理解している。	○	○	
5	(2)野菜の分類 露地野菜の栽培	ピーマン、トウモロコシ、エダマメ、オクラなどの野菜の栽培管理方法（播種方法や定植方法）について理解している。	○	○	○
	2, 野菜の消費 3, 野菜の生産と供給	野菜の消費動向の変化や消費量、消費の多様化について理解し、消費者が求める野菜とは何か理解する態度を養う。	○		
6	4, 野菜の安全性 露地野菜の栽培	野菜の生産と流通のしくみを理解し消費の働きから輸出入の状況を把握することができる。野菜の安全性や栄養成分について理解する。	○		
		ピーマン、トウモロコシ、エダマメ、オクラなどの野菜の栽培管理方法（生育状況に合わせた栽培管理）について理解している。	○		
	野菜の生育特性と栽培環境の調節技術 (1) 野菜の生育と生理	おもな野菜の種まきから収穫までの生育過程を正しく理解する態度を養う。	○		
		よい種子の条件を理解し、発芽の条件および発芽の生理について理解している。	○	○	

7	(1) 野菜の生育と生理	根や茎や葉の成長過程を知り、栽培との関わりを理解している。	○	○	
	露地野菜の栽培	光合成や温度・光等環境条件との関連について理解している。 露地野菜の収穫時期を知り、収穫方法を身に付ける	○	○	○
9	野菜の生育特性と栽培環境の調節技術	根の発達や分布について学習し、栽培との関わりを理解している。	○		
	(1) 野菜の生育と生理	葉根菜類においては、花芽形成・抽だいが栽培上不利になること 果菜類では正常な花を着生させることが基本となること理解している。開花と受粉・受精のしくみについて理解する。	○	○	
	露地野菜の栽培	秋野菜(キャベツ、ダイコン、ハクサイ等)の栽培管理方法(生育状況に合わせた栽培管理)について理解している。	○	○	○
10	(2) 野菜の栽培環境と生育調節	野菜栽培において、さまざまな環境要因が生育にどのような影響を及ぼすか、好適な環境を作り出すにはどのような調整が必要かを理解している。	○	○	
	(3) 人工環境における栽培技術	施設栽培・養液栽培・植物工場などの人工環境における栽培技術の基本について理解している。	○		
	露地野菜の栽培 イチゴの鉢栽培	秋野菜(キャベツ、ダイコン、ハクサイ等)の栽培管理方法について理解している。イチゴの植え付けと栽培管理ができる。	○	○	○
	野菜の育苗 (1) 育苗の目的と方法	育苗の目的を理解し、育苗の歴史を学び、良苗生産のための技術の進展を理解する。良い苗の条件を知り、苗の良否が大事ということを理解している。	○		
	(2) 育苗技術の実践と応用	育苗容器の種類と特徴を学習し、利用できるようになる。品種特徴や収穫時期などの条件を考え育苗計画が立てることができる。	○	○	
	露地野菜の栽培 イチゴの鉢栽培	秋野菜の栽培管理方法や収穫方法について理解している。イチゴの栽培管理について理解している。	○	○	
11	果実を利用する野菜の栽培	イチゴについて来歴、栽培の歴史、生産動向、利用の仕方などを把握させ栽培について関心を持つ。イチゴの生育経過を知り、栽培に応用できるようにする。	○	○	○
		イチゴの品種特性と作型の種類を学び、栽培に適する品種や作型が選択できるようになる。	○	○	○
	露地野菜の栽培	秋野菜の栽培管理方法や収穫方法について理解している。イチゴの栽培管理について理解している。	○		
12	果実を利用する野菜の栽培	イチゴの生理障害や病害虫の鑑定ができ、防除することができる。イチゴの収穫方法や出荷の方法や鮮度保持の技術を理解する。	○	○	
	野菜の流通と経営改善	野菜の流通のしくみを理解する。市場の種類と役割を理解する。野菜の品質低下の原因を学習し、鮮度保持の技術について理解する。	○	○	
	露地野菜の栽培	栽培管理について理解し、適時に正確に管理ができる。病害虫の鑑定ができ、防除ができる。収穫適期や収穫の方法が理解できている。	○	○	○
1	野菜の流通と経営改善	加工・業務やさいの現状と特徴を理解する。安全生産体制の構築に中間事業者が必要であることを理解する。	○	○	
		6次産業化の取り組みについて学習し、地域の6次産業化の取り組みについて理解する。ブランドおよびブランド化の役割を理解する。	○	○	
	露地圃場管理	堆肥の施用方法を理解している。中耕の作業がしっかり行うことができる。	○	○	○

教科・科目（単位数）	農業・食品製造（２単位）	学年	３年
使用教科書・副教材等	食品製造（実教出版）	集団	選択
科目の目標 農業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、食品製造に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 （１）食品製造について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 （２）食品製造に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。 （３）食品製造について生産性や品質の向上が経営発展へつながるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。			

評価の観点とその趣旨

①知識・技術	農業の各分野について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けている。
②思考・判断・表現	農業に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ合理的かつ創造的に解決する力を身に付けている。
③主体的に学習に取り組む態度	職業人として必要な豊かな人間性を育み、よりよい社会の構築を目指して自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度が身に付いている。
評価方法	・１学期中間テスト（食品製造の意義と動向、食品製造の基礎）・期末テスト（食品の変質と貯蔵、食品加工と食品衛生）実験実習レポート、課題等の内容を評価する。 ・２学期中間テスト（食品の包装と表示、農産物の加工）・期末テスト（農産物の加工、畜産物の加工）、実験実習レポート、課題等の内容を評価する。 ・学年末テスト（発酵食品の製造、食品製造の実践と企業化、１年間のまとめ）実験実習レポート、課題等の内容を評価する。

学習計画

月	単元	単元や題材など内容のまとめりごとの学習目標	評価の観点		
			①	②	③
4 5 6	食品産業の現状と動向	食品産業の現状と動向について理解するとともに、関連する技術を身に付けている。	○		
		食品産業の現状と動向に関する課題を発見し、科学的な根拠に基づいて創造的に解決することができる。		○	
		食品産業の現状と動向について自ら学び、主体的かつ協働的に取り組むことができる。			○
7 9	製造原理と原材料特性	食品製造原理と原材料特性に関する学習の意義について理解するとともに、関連する技術を身に付けている。	○		
		食品製造原理と原材料特性に関する課題を発見し、科学的な根拠に基づいて創造的に解決することができる。		○	
		食品製造原理と原材料特性について自ら学び、主体的かつ協働的に取り組むことができる。			○
7 9	食の安全と品質表示	食の安全と品質表示に関する学習の意義について理解するとともに、関連する技術を身に付けている。	○		
		食の安全と品質表示に関する課題を発見し、科学的な根拠に基づいて創造的に解決策を見いだすことができる。		○	
		食の安全と品質表示について自ら学び、主体的かつ協働的に取り組むことができる。			○

10	食品の製造実習	食品の製造実習に関する学習について理解するとともに、関連する技術を身に付けている。	○		
11		食品の製造実習に関する課題を発見し、科学的な根拠に基づいて創造的に解決することができる。		○	
12		食品の製造実習について自ら学び、主体的かつ協働的に取り組むことができる。			○
1	食品製造の実践	食品製造の実践に関する学習について、理解するとともに、関連する技術を身に付けている。	○		
2		食品製造の実践に関する課題を発見し、科学的な根拠に基づいて創造的に解決することができる。		○	
3		食品製造の実践について自ら学び、主体的かつ協働的に取り組むことができる。			○